

世田谷・九条の会

世田谷・九条の会
ニュース No.64

2022年02月28日発行
(題字 西山簡石)

●事務局 〒154-0017 世田谷区世田谷 1-11-16 世田谷民商気付
Tel:03-6413-9547 Fax:03-6413-9548 Mail:setagaya-9jou@kzh.biglobe.ne.jp
●ホームページ <http://www7a.biglobe.ne.jp/~setgagaya-9jou>
●郵便振替口座 記番号 00110-5-260741 世田谷・九条の会

75年、新憲法と共に歩んだ私の決意

神野 智夫

私は1945年5月25日生まれです。現憲法は2年後の5月3日に施行されました。6月沖縄戦の終結(4分の1の島民の命が奪われた)、夏には全国の都市の無差別爆撃による空襲(東京大空襲では10万人を超える死者)で壊滅的な被害を、8月広島、長崎の原爆投下で数十万人に及ぶ死者と「黒い雨」による多数の被爆者が生まれ、またアジア・太平洋地域の各国では、2千万人以上の惨害をもたらしたと言われる第二次世界大戦は、8月15日、日本の無条件降伏(ポツダム宣言の受諾)によって終結しました。



戦勝国・連合軍(実態はアメリカ軍)の占領統治のもと、翌年46年11月3日、9条を含む新憲法が『平和を求める野の叫び=最も重要なのは誰がこのことばを書いたかではなく、それが書かれた時と場所である…当時、第9条は日本のほとんどすべての人にとってまったくあたり前のことに思われたに違いない』ダグラス・ラミス著(ラディカルな日本国憲法)公布されました。反ファシヨ連合国による宣言は、軍国主義の除去と民主主義の確立を基本的な内容としたもので、日本の国民が進むべき道は、平和で民主的な日本の実現にこそあることを示しました。従ってこの新憲法は日本の国際公約でもあるのです。

しかし、朝鮮戦争を境に「世界で最も古い民主主義国家」を自称するアメリカは、北朝鮮やその支援国側を敵視し抑え込もうと西側の同盟の強化に乗り出し、日本の施政権返還(取りあえずの独立)に際し、サンフランシスコ講和条約の締結(1951年)と同時に、日米安保条約を締

結します。この安保条約によって日本の再軍備への方向転換が図られることになりました。（この間の経緯は学習の友社発行の川村俊夫著『戦争違法化の時代と憲法 9 条』が詳しい）

戦後の自民党保守政治のもとで、安保条約は二度の改定がされ、警察予備隊の発足から現在の自衛隊にと日本の軍備が増強され、9 条の形骸化と日米軍事同盟強化が進められて来ました。さらに 21 世紀に入って、安倍自公政権は一気に 9 条を中心とした「改憲」の策動を強め、2015 年には集団的自衛権を合法化する「安全保障法制」の強行にまで至ったのです。

ところで、私がいま注目しているのは米国の政治学者、バーバラ・ウォルターの著書『内戦はいかに始まるか』です。「世界で最も古い民主主義国家を自称する米国が、内戦の危機に晒され、専制主義国家へ転落しそうだ」と指摘していて話題になっています。氏は「あたり前に享受してきた平和と民主主義は、気づかない間に格差社会、分断社会の谷間に崩れ落ちていくのではないか」と。

翻って日本の現状も社会全体が「これでいいじゃん」という感覚に陥っていないか？ 安倍・菅政権以上に、「改憲」に前かがみに突っ走る岸田政権にいま歯止めをかけられるかどうかは、今後の日本の平和か戦争の分水嶺となる重大な選択課題となっています。

憲法施行 75 周年を迎える今年、『憲法改悪を許さない全国署名』を広げに広げ、草の根からの運動と世論によって改憲策動を打ち破らなければなりません。 (北烏山在住)

「総選挙の結果と市民運動・野党共闘」

— 高田健さんの話を聞いて —

赤松 熊雄

12 月 12 日、戦争させない！九条こわすな！世田谷連絡会主催の学習講演会が、総がかり行動実行委員会共同代表の高田健さんを招いて開かれ、日曜日の午前 10 時という条件であったにもかかわらず、69 名が参加して熱心に話に聞き入った。

高田氏は先ず、10 月の総選挙を振り返り、「与野党逆転」の予想が外れ、政権交代に失敗した、最低限の目標だった改憲勢力を 2/3 以下にすることにも失敗した、と総選挙に至る衆参補

選等での勝利から来た期待感が安易なものだったとの指摘から切り出した。選挙後は「野党共闘は失敗だった」、「朝鮮と中国の悪口」を言って、「枝野叩き」をすれば通るといったメディアの総攻撃が一斉に展開され、まさに嵐のような1ヶ月だったと感想を述べた。ここに来て次第に冷静に考えられるようになり、市民連合は、近日中に総括を発表するつもり（注：1/17付けのホームページで公表）なので、今日の参加者にもその内容を検討して意見を寄せて欲しいと呼びかけた。何故、立憲野党の議席が減ったか、ひとつに自公の選挙戦術であり、もうひとつに我々の側の主体的な問題があったと分析する。

自公与党と改憲派は、自民党の総裁選挙を、マスコミを使って大宣伝し、菅から岸田に「表紙」を変えたことで、政権党の失策を国民から見えなくした。コロナの第五波が急速に収まったことも自民党への向かい風を止めた。今回の市民連合と野党4党との間で合意された6つの柱、20項目の政策合意はきわめて妥当なもので、野党は小選挙区289の内、214選挙区で候補者を一本化した。これは政権党にとって大きな打撃だった。市民連合は、その間、一筋縄では行かぬ苦勞を重ねて合意にこぎ着けた。しかし、この共通政策を浸透させ、実現可能だと国民が納得できるような団結した運動とする上では甘さが残った。危機感をもった政権党は、市民と野党の共闘を「野合」と呼び、時代錯誤の反共攻撃に注力して多数派を維持した。実際、共闘の内容は選挙区によってさまざまで、運動が進んだ東京8区では、自民党の幹部である石原伸晃候補が落選し、野党共闘の候補者が当選した。この選挙戦で8区の市民がどのような運動を展開したのか、また世田谷区ではどのような選挙運動がなされたのか、それぞれの経験を学ぶ必要がある。また、野党共闘は、小選挙区では一定の成果を出したが、比例区では伸びなかった。比例区でのたたかい方はあらためて考えて行く必要があるだろう。



この野党共闘の弱点が中間的な人たちの不安感を招き、維新の会が伸びる基盤を作った。しかし維新の議席増は、マスコミが喧伝するほど特別なことではない。それは、過去の選挙結果を見れば（2014年：41；2017年：17；2021年41議席）明らかである。

岸田政権の本質は、安倍・菅 9 年の改憲・安保強化路線と、「新しい資本主義」という名で新自由主義に化粧をして継承するものになっている。今後は、明文改憲と実質改憲の両面での急速な進行に警戒しなければならない。宏池会は岸田の転向で安倍に急接近している。岸田は自民党内の「憲法改正推進本部」を「憲法改正実現本部」に改称し、国会での憲法審査会をこの臨時国会中にも二週で 2 回開会するなど、国会内外での改憲キャンペーンを強力に推し進めている。（今までは国会の予算案審議中は憲法審査会を開いていなかった）

また実質的には、選挙公約で防衛費の対 GDP 比 2%以上への引き上げ、「敵基地攻撃能力」の保有、安倍元首相の「台湾の有事は日本の有事」発言に見られるように、米国の戦略に組み込まれた北朝鮮敵視、QUAD などの対中軍事包囲網に加わり、異常な合同軍事演習の強化・日常化など、これまでの自民党内閣の基本線を越えて東アジアでの軍事的緊張を高めている。

こうした岸田政権の危険性を多くの人に知らせて行かなければならない。参議院選挙の 32 の 1 人区で勝利し、与野党伯仲の国会とするためには、立憲野党は、候補者を一本化してたたかうしかない。市民と野党の協定や共闘をめぐり、「ヒビ」、「すきま風」と評論する向きがあるが、言わせておけばいい、勝利可能な道はそれしかないのだから。

以上の話を伺って、次のことを感じました。

「野党共闘は市民に支持されていない」と、マスコミや労働組合（連合）の幹部までを利用して、政権が必死になって宣伝をしていることは、裏を返せば、現在の政権が野党共闘をそれほど恐れていることを示していると思います。私たちの役割は九条をはじめとする憲法改悪反対の多数派世論を作り、参院選の勝利につなげることではないでしょうか。（祖師谷在住）

金曜日、朝のスタンディング

清水 繁子

私が経堂駅前でスタンディングを始めるきっかけは久美さんと出会ったことです。2020 年 11 月 2 日、朝の 7 時半、久美さんは日本学術会議人事介入反対を訴えるスタンディングを行っていました。職場が経堂駅の近くなので、始業前の 30 分間、すでに 2 週間連続でスタンディングで訴え続けているとのことでした。

久美さんの頑張りに刺激を受けた私は、毎週金曜日の朝のスタンディングを始める事にしました。

初回は11月20日、まず、日本学術会議の人事介入反対のプラカードで訴えました。駅前には2つの私立学校に通う小学生が多く、その中から、「かんじがよめないよ」という声が聞こえました。そこで、翌週からふりがなをふりました。それからは小学生たちがかわいいで声でプラカードを音読してくれるようになりました。

「よく読めたね。読んでくれてありがとう」

というと、こっくり頷いてくれます。

1月は「沖縄辺野古の埋め立てをやめて、そのお金をコロナで大変な医療にまわしてください」の横断幕を掲げました。中高の私立学校も2校あり、生徒さんたちが、まっすぐな眼を横断幕に向けてくれます。



1年以上やっていると、いろいろな出会いがあります。沖縄出身の20代の男性二人と話していたら、寡黙な方の若者が玉城デニー知事の息子さんだとわかり、驚きました。脱原発を訴えていたら、原子力発電所の現場で長年働いていたという高齢男性が話しかけてくれたこともあります。

オリンピックの頃までは「オリンピック中止」を訴え、選挙のときは野党共闘を訴えました。

2021年11月12日のその日は改めて「辺野古埋め立て反対」を訴えました。若い女性が近づいて来て、

「和光小学校で沖縄に行き、辺野古も見に来ました」

と言うのです。話を聴けば、実は彼女、小学6年生だったのです。

「こういう活動をしてる人、カッコイイと思います」

最後に彼女が言ってくれたこの言葉、これは「9条の会」の私たちと、日本中、世界中で頑張っている皆さんへのエールだと思います。(桜丘・経堂9条の会)

二年目の「炊き出し」

一宮 蓉子

12月29日～1月3日までの6日間、去年に引き続き「オアシス」にて炊き出しをしました。一昨年、新型コロナウイルスの感染が急速に広がり、失業等で生活が困窮する人が増えていた時期に「私たちにも何かできることないか？」との思いで取り組んだ活動を、今年も引き継ぎました。昨年の反省から、早めに準備に取りかかろうと思っていたにもかかわらず、動き始めたのが12月頭になってしまい、十分な広報ができなかったのは残念でしたがそれでも去年と比べるとだいぶスムーズに実行できました。



6日間で延べ36人、144食のお弁当を希望する方にお渡しできました。31日には通常のお弁当+年越しそば、お正月にはおせちと赤飯とお雑煮、2日は太巻き寿司とぜんざい、と出来る範囲で「それらしき工夫」をし、受け取った方には大変喜んでいただきました。それもこれも大勢の方々のご協力の賜物と深く感謝しています。

社会福祉協議会や生協等、また情報を得た個人の方からお米や野菜や食材（お蕎麦やお餅もたくさん）、カンパ、クラウドファンディングを通しての寄付、そして何よりも毎日たくさんのボランティアさんが調理や受付・配布に参加して頑張ってくれました。若い方々がネットで見て応募してくださり、中には遠くから電車で、あるいは年末年始の休みに毎日来てくださった方もいて、本当にありがたいことでした。

南米アンデスの民話に「ハチドリの一滴」という話があります。森で火がおき、多くの動物たちが逃げるなか、一羽のハチドリがくちばしに水を蓄えて運び、火を消そうとします。動物たちは「そんなことをしても無駄だ」と言いますが、ハチドリは「私は私にできることをしているだけ」と答えます。この炊き出しもホンの一滴かもしれませんが、私たちも今私たちにできることを精一杯やるだけだと思っています。

皆様からおよせいただいた寄付・カンパ・食材等がまだ残っているので、4日以降も希望される方々にお弁当の配布を続けています。誰もが食べることや生活することに苦勞しなくていい日が来ることを願いながら……。

(弦巻在住)

朝のラジオ体操

松尾 弘

今私は、健康を兼ねて地元のラジオ体操に20年以上参加しております。参加の動機は、隣近所の人たちと挨拶ができる関係と思い、もともと体を動かすことが好きだったので、それには「毎朝のラジオ体操」が一番と、参加するようになりました。

参加者の話によると、私の父も前は参加していたようです。参加しはじめの頃は、仕事をしていたので毎日参加とはいかず、土日を中心に参加していました。そのころのラジオ体操会場は、私の母校である小学校でしたので、ほとんどの参加者は隣近所の人たちでした。



参加者の中には、地元の高齢者クラブの人たちがおり、「輪なげ」「カラオケ」「歩こう会」といったクラブに誘われるようになりました。参加者と親しく話すようになりました。そして、① 家庭のことは、話題としない、② 政治の話もしないといった事が解るようになりました。

しかし、20年以上参加していると、朝のラジオ体操だけから街を歩いていて話しかけられたりするようになり、そのうち身内の話や世の中の話もできるようになり、お互いの関係が親密になりました。そのうち「本音」の話もできるようになりました。

参加者の多くは、高齢者が多いので、途中で参加できなくなったり、いろいろなことが起きます。

現在、母校は改築中であり、ラジオ体操の会場が少し遠いところになり、朝早く起きて参加しております。参加者のメンバーも今までと違ったメンバーも増えています。また、毎年夏休みには子供たちが多く参加します。毎年1年ぶりで会うと、その成長ぶりには驚かされます。このような中で、私の参加しているグループの会報なども読んでもらう方も増えました。

私が隣近所や町会のみなさんと親しくなれたのも、毎朝のラジオ体操が取り持っていると思います。

みなさまも、体と時間の余裕のある方は、ラジオ体操に参加してみるのはいかがでしょうか？何か新しい発見があると思います。

(代沢九条の会)

衆院選後と今をウオッチする

山田 太枝

① マスメディアの豹変

昨年十月の衆院選の直前まで、マスメディア報道の焦点は、与党が過半数を維持出来るかどうかだった。しかし、「想定外」な選挙結果が出てからというもの、メディアの矛先は豹変した。洪水のような立憲民主党たたきと野党共闘失敗コールが始まったからである。（参考 日刊ゲンダイニュース編集部長小塚かおるの政治メモ ジョルダン・ソクラ・ニュースより 2021・12・06）

② 自民は転落の怯えから一転、維新を使って野党再編劇を仕掛けるか

一方、過半数割れに怯えていた筈の自民党には、おいしい役回りが転がり込んだ。それは、タカ派自民より更に極右ではないかと見まがうネオリベ維新を使って、「第一野党の立憲民主党を解体、または叩いて丸ごと中道右派へ変えてしまおう。」という野党再編劇を仕掛けるという役回りだ。（参考 ユーチューブ哲学入門じゅんちゃん 北畑淳也による一連の維新批判動画&富田宏治による維新分析）

③ 見ざる言わざる聞かざる立ち上がざる状態には政権交代が不安か

戦後、民意による野党への政権交代が実現したのは、戦後すぐの片山哲内閣と2009年の民主党政権の時二度だけ。その他の交代劇は政党同士の談合政権だ。日本では民意による政権交代がとてつもなく困難。「アメリカの手下になっとけば食いはぐれはない。資源無しの小国日本は大国に睨まれたらおしまいよ。大国なんてどこも成り上がりの悪党、日本に選べるのはどの悪党にへつらうかだけ。」という



日本人のリアリズムが、延々保守政権を支え、今や日本の若手は見ざる言わざる聞かざる立ち上がざる状態に瀕したかのごとくだ。

④ 現下の政治状況は落城寸前の大阪城か

非戦と核兵器廃絶を国是とする多くの日本人にとって、現下の政治状況は崖っぷちだ。なぜなら、極右タカ派にジャックされた国会、洪水のように流入する、落ち目の米国と同じく再選の危うい民主党バイデンを救済するための「反中プロパガンダ」に洗脳されたかのような、排

外反中主義に簡単になびいてしまう日本の世論、それに支えられて、眼前に展開する再軍備自衛隊と憲法九条の文言との絶望的なまでの乖離、これらに包囲されているからだ。

⑤何度でも船を出そう！

さて今、内憂外患の中、困難だが、市民と野党はもう一度参院選に向けて共闘の船を出そうとしている。（二十二年以上続く選挙の達人、自公野合を見習うべし！）個々の立憲野党の得票率を底上げすることが喫緊の課題だが、それはひとえに、多数に支持される日本の未来像を提示できるかにかかっている。（参考①野党共闘と衆院選結果の分析で最も説得力があったのは、雑誌「世界」一月号中野晃一論文「野党共闘をアップデートせよ」、②選挙結果の緻密なデータを基礎に俯瞰的分析が優れていたのは同誌の菅原琢論文「野党共闘は不発だったのか」）

桜在住（めぐろ・せたがや市民連合&八ヶ岳九条の会）

ソ連邦解体後の三十年と日本

石川 ゆたか

★冷戦後に現れた世界

昨年十二月二十五日はソビエト連邦が解体されてから三十年目にあたり、新聞でも特集記事が見られた。かつては米国と並び超大国と称されたソ連邦が解体されてから三十年が経過した。この間に、ロシアと旧ソ連諸国、旧東欧諸国はグローバル経済に組み込まれ、その後中国、インド、アフリカ諸国、中南米を含めた世界市場が形成された。

軍事的には NATO の東方拡大、日米同盟の強化が進展し、パクス・アメリカーナと呼ばれる米軍が世界に君臨する体制が確立した。冷戦時、日本は「反共の防波堤」という窮屈な役割を強いられたが、冷戦後においても日米関係に大きな変化はなかった。冷戦後の世界、またはグローバル経済の世界、または米軍の一極支配の世界が出現して三十年、日本は変わったようであるが、また一面では大して変わらなかったようでもある。

★「リベラル」の座標軸

八〇年代のバブルが崩壊したのがちょうどソ連解体と同じ一九九一年、その後の十年は「失われた十年」と呼ばれ、その後の二十年は「失われた二十年」と呼ばれた。その日本を大震災が襲い、その後は安倍内閣の下で停滞は続き格差は拡大した。戦後一貫して上昇してきた労働者の賃金は九〇年代を境に低下に転じた。

ところで昨年の総選挙は、与党である自公の保守勢力と立民・共産など野党リベラル勢力の対決と言われた。現在では保守対リベラルというのが政治対立の図式となっているが、ソビエト連邦があった頃の日本の政治は、保守と革新の対決であった。巨大与党の自民党が保守であり、社会党・共産党などの野党が革新であった。革新政党とはマルクス主義、社会民主主義など差はあるものの、何らかの形で社会主義をめざす政党であり、当時野党であった公明党の当時の綱領には「人間性社会主義に基づ」くと明記されていた。

では当時リベラル勢力はどうだったかという、保守の一部を形成していた。当時実在した社会主義国家、ソ連・中国などでは言論の自由などが制限されており、自由に価値を置くリベラルは反共の立場を取っていた。一方社会主義を目指す日本共産党は「自由と民主主義の宣言」を発表し、ソ連型ではない自由な社会主義を模索した。

当時のソ連邦は社会主義の大国であり、大方の日本人は「社会主義＝平等」と理解していた。それに対して「資本主義＝自由」と理解されており、この点でも、リベラルは保守の一角であった。

その頃から三十年が経過し、今はリベラルの人々はかつての革新とともにリベラル勢力を形成している。そしてこのリベラルの立ち位置の変化が、この間の日本の政治と思想の状況を象徴しているように思う。それはつまり保守がリベラルではなくなったということであった。



★「保守」の変容、失われた多様性

史上初の社会主義国家であったソ連は、労働者の八時間労働制、有給休暇制度、社会保険制度、無償の教育、医療の無料化などを世界に先駆けて実施しており、それらの成果は資本主義の国々にも波及していた。資本主義のもとで福祉を推進し、国家が主導する財政・金融政策で成長を実現し恐慌の回避をめざす経済は「混合経済」と呼ばれたが、ソ連と社会主義ブロックが解体された後にはむき出しの「ルールなき資本主義」が出現した。

「憲法を守る」とは近年はリベラルの主張となったが、八〇年代までは、多くの保守政治家が現行憲法を基盤とした資本主義の政策を主張していた。九条の維持、戦争反対を語る保守政治家は少なくなく、自民党内の「ハト派」と呼ばれた。ソ連解体から三十年を経て、保守政党から

「ハト派」が消え、リベラルは保守と対立するようになった。保守勢力は歴史修正主義との親和性を強め、戦争被害者、軍国主義の被害者を貶める言動が横行するようになった。秘密保護法、戦争法、共謀罪の強行採決、国会の召集要求の拒否など、立憲主義が崩れ、選挙という外皮を維持しながらも、その政治手法は完全に独裁そのものである。民主主義とは多数決ではなく、少数意見の尊重なのだが、ソ連邦解体後の日本は、かくも多様性が失われた社会となった。

★平等の喪失

ソビエト連邦があった頃、日本人の多くは「社会主義＝平等」と認識していたが、ソ連解体後、実際に社会格差が拡大するなかで、平等が崩壊した。それは同時に「人は平等であるべき」とする倫理観の喪失であった。この間、日本では安倍内閣が憲政史上最長の内閣となったが、「森友・加計問題」などに見るようにこの内閣では首相の近親者は不当に優遇された。このような不公平には当然に批判が起こったが、選挙になると有権者は与党を勝たせたので、この内閣は最長を記録した。格差は所与の現実となり、人びとは不公平を正すより、不公平な社会の中で、少しでもましに生きる事を選んだ。

★未来を照らす知的活動

以上が、私が見たソ連解体後三十年の日本の変化である。それは「混合経済」から「ルールなき資本主義」への変化であり、非正規雇用の増大に伴う格差の拡大であり、平等の喪失であった。保守の中からはリベラルや「ハト派」が消え、多様性が失われた。公債の発行がGDPの二倍を超える日本の資本主義は、何処へ行こうとするのか？

けれどもそんな中で、昨年は「人新世の資本論」がベストセラーとなり、関連して資本論関連の本がよく読まれた。ソ連邦や社会主義体制とは無関係に、マルクスを拠り所に資本主義を解明しようとする知的活動が広まりつつある。未来を開く力とは、そのような知的活動の先に生まれるものではなかろうか。

(日本ユーラシア協会世田谷支部事務局長 世田谷区立中央図書館勤務)

【本棚】 「戦争は女の顔をしていない」 (岩波現代文庫)

スヴェトラーナ・アレクシェーヴィチ 著 三浦みどり訳

スヴェトラナ・アレクシェーヴィチは 1948 年にウクライナで生まれ、国立ベラルーシ大を卒業した女性ジャーナリストで、彼女は、2015 年のノーベル文学賞受賞者である。

1941 年、独ソ戦争勃発。ナチスのソ連侵攻そこから 1945 年 8 月 15 日までの第二次世界大戦。この戦争に多くの女性（15-20 歳未満の）が自ら志願し、衛生指導員、狙撃兵、機関銃射手、高射砲隊長、工兵などとして従軍した。戦争が終り、帰還してから、アレクシェーヴィチがインタビューするまで彼女たちはずっとそのことについて沈黙をしていた。

この本は、1978 年からアレクシェーヴィチが彼女たち一人一人からその体験談を聞き、それをまとめ戦争の真実として伝えたものである。

この作品は KADOKAWA から、速水螺旋人監修、小梅けいと著スヴェトラナ・アレクシェーヴィチ原著のコミックス版も出ており、そちらも人気である。

☆併せて読みたい

同じ作者訳者の「ボタン穴から見た戦争」（岩波現代文庫）

九条の会呼びかけ人の湯川れい子氏が書かれた「時代のカナリア」—今こそ女性たちに伝えたい！（集英社）もどうぞ。

【おたより】

- いつも皆様のご意見・勉強会の様子、戦争についての体験話し、世田谷の会の行動について会報をありがとうございます。府中市・O さんより
- 持病を 3 つ抱えて行動に参加できません。九条は宝，子どもも宝、宝を次の世代に渡す責任は大人にあります。国の指導者の務めです。会報が楽しみです。狛江市・K さんより
- 人の話を聞くのが得意とのことだったが、だれが九条を変えて！と言ったかしら。最悪！！赤堤・K さんより
- 改悪の策動が強まろうとしています。「九条の会」の存在、いよいよ大切になると思います。頑張りましょう。わずかですがカンパを送ります。弦巻・Y さんより

【当面の行動】

3 月 26 日（土） 10 時半～ 戦争させない！九条こわすな！世田谷連絡会主催 世田谷区民集会 世田谷区役所脇の若林公園。集会後、三軒茶屋までパレードする予定です。ひさしぶりの集会とパレードです。声を出すことが難しい時節柄、目で見て訴えが届く、工夫を凝らしたプラカードや横断幕などをお持ちより下さい。

【俳句教室（１）】

山形 三郎

俳句のコーナーを担当して約２年が過ぎた。読者からの要望で、俳句について、基礎を学びたいので、簡単なテキストを作って欲しいとの話が出た。又、皆さんの投句した句を場合によって添削することもある。その過程を明らかにして欲しいとの話もある。これらを併せて今年は、「俳句教室」を開講する。

ひとつの景色（俳句の原点）：12月も押し迫った晴れた日、浄土真宗の寺の門前に掲示板があり、墨で「人生は苦である」と書いた半紙が止られていた。老人が通りかかり、その書を見て何かを感じて、俳句を作ろうとした。「苦」とは、仏教では、四苦（生・老・病・死）のことで、生きて行く人の世の苦しみ。この言葉は、35歳の釈迦が悟りを開いた時の言葉である。老人は、メモ帳を出してその日時と天候、寺の名前と宗旨、「人生は苦である」と書き、墨書の「苦」の字を観察し、帰宅した。

老人が午後、作った句：「墨太（すみぶと）の苦の字歳暮（さいぼ）の寺の筆」

俳句教室の第一は：メモに、俳句にしたい光景や気持ちを「写真」のように「文章化」を試みる事である。事実の羅列、自分の印象、何か奇妙と思う事、面白いと思う事、等。メモは、「句帳」と言われるものになり、スケッチや俳句が貯まっていく。

今月の投句欄：

「寒椿雪の中にも滲む赤」（Aさん）

「赤き空冬の富士浮く夕景色」（Mさん）



俳句添削教室：

案「春待ちてながめて見るは梅の枝」

問題点①「春」という季語と「梅」という季語が二つ使われている。季語は原則、一つ。

②「ながめて見る」は、見る行為（ながむ・見る）を重ねて云っている。

これらの問題は、17音という短詩を作るには、言葉を有効に使うことが重要ということ。季語の重なり、同じ言葉の重なりを避けることが大事。言葉（音）を省くことも重要である。

添削案「梅待ちて枝先眺む日向かな」

【事務局だより】

昨年の総選挙で改憲勢力は衆議院の 2/3 の議席を占める結果となりました。岸田内閣は、この 7 月の参議院選挙で、参議院でも「改憲勢力」を 2/3 以上獲得し、改憲発議に踏み出すことを公言し、そのため全国で「草の根」改憲運動を進めることを自民党支部に指示しています。安倍内閣が、2015 年 9 月に集団的自衛権行使を容認する「平和安全法制整備法＝戦争法」を強行し、その実質化に障害となる憲法 9 条を「改正」し、自衛隊を軍隊として憲法上明記しようとした時、私たちは、「草の根」の市民運動で、2000 万、3000 万署名運動を巻き起こし、この策動を阻止してきました。私たちの抵抗が強ければ強いほど、政権側は、あの手この手で野党を分断し、国会での多数派を維持しようとしています。私たちが平和を望む世論を作る大事な運動のひとつがこの署名活動です。

今回 2 つの署名用紙を同封します。ひとつは、昨年末から始められた岸田内閣に対し、「自民党の改憲 4 項目反対」と「憲法を国政に活かせ」とを要求する新たな署名です。コロナ禍で街頭での活動が困難になっています。皆さんお一人お一人とご家族、知人の方に働きかけて下さい。7 月の参議院選挙までの大運動として取り組みましょう。

もうひとつは、核兵器禁止条約を日本国政府が批准することを求める署名です。一日も早く世界から核兵器をなくすために、多くの方のご協力をお願いします。

どちらの署名もコピーして広げていただければ幸いです。用紙が必要でしたら、何らかの形でお届けするようにします。ご連絡下さい。集まりましたら、同封の封筒に入れ、事務局まで返送下さい。世田谷・九条の会として、集約して中央団体に届けます。恐れ入りますが、切手代はカンパいただけますようお願いいたします。

【編集後記】

☆ 九条の会への寄金について問合せをいただいています。寄金いただいた方に、その都度お礼状をお送りしたいところですが、郵便料金が高騰して九条の会の財政上かないません。振込用紙の半券を領収書がわりとさせて下さい。なお、振込用紙は、基本年 2 回（隔号）、ニュースとともにお届けします。ご自身のゆうちょ口座から振り込めば手数料が節減できます。

☆ いろいろな問題をはらみながら、北京冬季オリンピックが閉幕しました。平和の祭典と言われるオリンピックで、世界各地から集まったアスリートの皆さんが日頃の練習の成果を発揮して活躍する姿には感動を覚えました。その直後、ロシアがウクライナに軍事侵攻しました。ロシア軍の即時撤退と、外交を通じての平和解決を心から願ってやみません。